

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272600289	
法人名	社会福祉法人八千代会	
事業所名	グループホームせせらぎ	
所在地	青森県むつ市川内町字獅子畑128番地4	
自己評価作成日	平成22年7月30日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272600289&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成22年8月23日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な於法岳のふもと、川内川のほとりの自然環境豊かな地に「特別養護老人ホームせせらぎ」に併設された、「グループホームせせらぎ」が設置されています。また、温泉が沸き、入居者は、いつでも温泉浴が出来ることを大変喜んでいまし、地域の方々も温泉を利用されたり、敷地内の湧水を飲みこられ、入居者とも馴染んでいます。施設内は、全て廊下で繋がり、デイサービスやショート利用者、特養入所者が自由に行き来出来ます。入居者もリハビリに参加したり、販売日を利用して、自由に自分のペースで生活しています。訪問される地域の方々が多く、その時々山菜や海のもの等届けくださり、地域の自分の家で暮らしていた頃と同じように安心の生活が営まれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた場所で、これまでとなるべく変わらない生活が送られるよう配慮している。また、地域密着型サービスを意識し、温泉施設や敷地内の湧水などを開放した施設の有効活用、地域住民から山海の恵みを提供して頂き、食材に活かすなど、地域との日常的な交流に優れている。日々の運営面では、職員会議などを通じて利用者の支援についての方針や具体策などが共有されているほか、入居者はもちろんのこと、職員も不安が無いよう、日々の連絡を密にするよう心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域社会とのつながりを重んじ、生活環境の中で「安心・安全な生活」を理念として入居者と職員が「笑顔で元気」をモットーとしている。	「安心・安全な生活」を理念として、住み慣れた地域とのつながりや生活歴を重んじながら、利用者が生き活きと生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービス利用者や研修や見学を受け入れ、地域の行事に積極的に参加して交流をもっている。	敷地内の湧水を開放したり、地域の方々が収穫した野菜が提供されるなど、日常的な交流が図られているほか、祭典など地域の行事にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援センターと連携して必要に応じ、地域の方々の介護方法や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討事項について結果を報告し、各部署の意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	委員は、家族会代表、法人評議員(民生委員)、市役所職員、町内会長などで構成され、会議録はむつ市に提出されているほか、職員会議を通じてサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	むつ市の担当者と連絡を取り情報の収集に努めている。	問題解決の相談や居室の空き情報の交換など、必要に応じて情報交換し、連携した運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームを家庭として捉え、身体拘束はありえないこととし、職員全員が認識し取り組んでいる。	身体拘束は行わないという前提に立ち、マニュアルの整備、内部研修の実施などにより、身体拘束の無いケアの実践に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や園内研修に於いて尊厳に向けた取り組みを行っている。また、全職員が虐待があってはならないことを意識し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んできたことを園内研修で報告し、職員に理解してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に家族に重要事項を示して充分説明し、また、退所時は身体機能に合わせた受け入れ先を確保してから退所してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しやすい雰囲気を作っている。面会のない家族には、電話連絡や手紙で近況報告している。	運営推進会議や面会時、事業所の行事など様々な機会を捉え、意見、要望などを伺い、職員会議等に諮り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、月一回の全員参加の園内研修後に職員の意見等話し合う場を設けている。	日々の申し送り、職員会議、法人全体の会議を通じて運営や担当ケースに関わる意見を吸いあげ、業務改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回人事考課を行い、個別職員の苦情や要望を聞いて対応している。また、資格取得については、全職員で協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修やスタッフ会議で学習会を行っている。また、全職員で一緒に学ぶ機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループへの見学をして、意見や経験を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談室を準備し、外部に聞かれることなく、ゆっくりと相談が出来るよう話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談室を準備し、外部に聞かれることなく、ゆっくりと相談が出来るよう話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に見学してもらったり、デイサービス利用時、職員が出向き話し合うことにより、安心して生活できるよう、また、顔なじみになれるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手助けする側、される側と区別することなく、お互いが協力しながら、和やかな生活が出来るように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭で生活されていた時の様子を聞いて、希望されているケアを家族と同じ思いで支援していることを伝えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りをしたり、デイサービス利用の同郷者との交流を多く持てる働きかけている。	地縁を大切にし地域との交流のほか、墓参りをしたり、同郷の併設施設利用者との交流を積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間は、皆でホールに集まり、職員も参加し、会話を楽しむ雰囲気づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設に移られた方も、気軽に遊びに行ったり、訪問していただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を受け入れている。また、日々の行事や表情からくみ取り把握し、本人にとって最良の支援となるよう検討している。	生活歴を尊重し、本人や家族の意向に添うよう努めている。意向の把握が困難な方には、日々の生活の中での行動や表情などから本人の思いを汲み取るよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人等から聞き取り等により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日24時間の生活を時々記録して、全体像の把握に努め、出来ることを見出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のスタッフ会議で話し合いをもち、現時点に合った介護計画を作成している。	計画作成担当者が家族の意向を聴き取っているほか、職員会議での話し合いにより、個々の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意している。温度板で食事、バイタル、水分摂取量、排泄、日常生活の様子を記録し、情報を連絡ノートで職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、近隣集落へ協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は、事業所の協力医の外に、本人の希望する医療機関を利用できるように通院介助をしたり、訪問診療を受けている。	できる限り、元々の主治医との関係が継続できるように努めているが、困難な場合は、家族の同意のもと、事業所の協力医と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤させ、常に相談し、連携しながら行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を医療機関に提供し、頻繁に見舞い、家族とも連絡を取りながら、早期退院に努めている。また、医療機関との連携は、グループホームの看護師が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命に対する確認書を作成し、家族と医療関係者と連携を取りながら対応している。また、職員全員が協力している。	入居前に十分な説明を行っているほか、重度化した場合には、家族、医療機関、職員が連携して終末期のケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受けたり、マニュアルを準備し、併設施設と協力し、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、併設施設の職員、消防署、集落の消防団、近隣の集落方々が応援出来る体制を整えている。	マニュアルの作成、年2回の訓練、研修などにより有事に備えているほか、関係機関や併設施設も含めた職員、地域の方々との協力体制も整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりをありのまま受け入れることは、難しいが、それぞれ自由にその人らしい生活が送れるよう声かけに努めている。	前年度の外部評価結果を踏まえ、居室が見えにくい工夫が施されていた。また、排泄等清潔面でも一人ひとりの個性に添った声掛けや促しなどにより、その人らしい生活への配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自分の好きな作業を選んで頂き、継続出きるにしている。また、入居者の意見や希望を受け入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を優先し、無理強いせず、入居者のペースに合わせている。また、入浴に関しては、月曜から土曜日までいつでも温泉浴が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設施設に理美容室が設置され、地域の理美容師が月一回出張して下さるので、希望者はカット、パーマ、毛染等整容が出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は弁当を持参し、同じテーブルで会話を楽しみながら食べている。入居者は食事の支援や後片付け等分担して行っている。	地域から提供される旬の食材を積極的に活用している。また、個々のし好や役割にも配慮しつつ、併設施設の専門職とも連携し、食事を通じた生活支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残渣の調査や、嗜好調査を半年に一回行っている。また、量も一人一人に合わせた盛り付けにしている。献立作成時に誕生月の入居者から個別に希望を聞き、好物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを実施し、出来ない入居者には介助している。また、週一回義歯消毒を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の状況に合わせて、排泄のチェックリストを作成し、排尿パターンを把握してさりげなく声がけやトイレ誘導を行っている。夜間希望者にはポータブルを使用して、オムツは増やさないようにしている。	心身の状況や排泄の様子などの情報を職員が共有し、個々の状況にあった声掛けをしている。また、夜間には希望者に対し、ポータブルトイレを利用して頂くなど、一人ひとりの残存能力に合った支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	水分の摂取量一人ひとりに合わせて準備している。献立作成時に便秘の対応も考慮し、作成している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	併設施設に数ヶ所の温泉浴場があり、希望や体調に応じて入浴出来るようになっている。また、夏季は夜間浴、シャワー浴も行っている。	併設施設内の温泉が利用者に喜ばれている。基本的な入浴時間は決まっているが、季節や本人の状況、要望によりできる限りの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠者に対しては、日中軽作業を手伝っていただき、夜間の安眠に努めている。眠剤服用者に対しては、排尿時の見守り等、転倒防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイルを作成し、職員全員がその内容を把握している。ファイルはいつでも見られる場所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意分野で仕事をしている。数人でチームを作り、作業をする場の提供をしている。花壇も整備し、家族が育てた花を持参してくれて、園芸を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎にドライブをしたり、地域の行事に参加を促している。	買い物や地域行事への参加、季節毎のドライブなど本人の希望にできる限り添った支援を行っている。また、天候に応じて散歩できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	参千円程度本人が管理している。また、全く管理できない場合は、家族が行っている。入所者預り金品管理規定にそって、預かっている入居者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設の施設にポストを設置している。また、電話は随時取り次ぎ、いつでも自由に使用できるようにしている。また、家族、知人、友人の訪問時は、居室、談話室等を自由に利用出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースが広いので、ソファを置いたり、食堂のテーブルで好きな時にお茶を飲んだり出来る。また、テーブルに季節の花を飾ったりしている。	採光の工夫や飾り付けなどにより、心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にマッサージ器を設置し、いつでも使用出来るようにしている。また、廊下にも椅子を置いて気軽に休み、会話が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、持ち込み可能にしている。外出時に使い慣れたものを持って来てもらっている。また、小物に関しては、使い慣れたものを持ち込み、不自由のないようにしている。	入居時には、本人が使い慣れたものを持参して頂くよう、家族にお願いしている。また、職員が協力して居室の飾り物の作成、飾り付けを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、使いやすくしている。洗濯物は、自分の部屋やベランダに1人で干すことが出来るように、低くして持ち運びの出来るものを準備している。また、施設内はバリアフリーで安全に移動出来る。		